



ILC地質調査等説明会（11月24日、米里地区センター）

ILC誘致を目指した取り組み

市では、ILC誘致推進のための情報提供や情報共有などを目的として、7月6日に「市国際リニアコライダー推進連絡協議会」を設立。農工商団体や地区振興会などの41団体が加入し、講演会への積極的な参加や情報収集、地域の勉強会などの支援を行っています。この組織によって市内関係団体との連携を柔軟に図

ることが可能となりました。今後、東北での建設実現に向けた要望活動などにも対応していきます。

市は商工会議所と協力し、市を訪れる人に地元の熱意を伝え、広域的な理解を醸成するために、ILCの東北誘致をPRする看板を設置しました。看板は、国道397号の沿道3カ所とJR3駅の歓迎塔、東西連絡通路で訪問者を出迎えています。

また、市では、関係事業として中学生の科学体験研修を行っています。本年度も市内の中学生21人が茨城県つくば市の加速器研究施設などを見学しており、将来を見据えた人材育成に取り組んでいます。さらに、ILCの普及・浸透を目指し、職員が地区の講座に出向いたり、講師の調整などを行ってきました。広報でもILC関連情報を偶数月に掲載しています。

地元の熱意でILCの誘致を

ILC計画は、まだ国が認めたプロジェクトにはなっていない。このため、ILC計画を推進する研究者の組織では、各国政府に設計案を提示し、それぞれの国で認める計画とすることを目指しています。その後、世界の候補地の中から、政府間協議で建設候補地が絞り込まれます。



奥州市国際交流協会
会長
佐藤 剛つよしさん（57）

Interview



奥州市商工会議所
専務理事
菅原 新治しんじさん（59）

Interview

各国の研究者が多く滞在するため 受け入れ態勢の構築が必要

現在、市内には約500人の外国人市民が住んでいます。国際交流協会では、その人たちを対象にしたILC研修会なども行っています。ILCが誘致となった場合、何千人もの研究者とその家族が東北に住むことになるという可能性があり、それぞれの地域での交流も多く生まれる可能性があります。

多言語での表記など、もっと外国人が住みやすい環境を整えていく必要があります。市民の皆さんも国際的な感覚を持てるような事業を企画していきたい。

さらには、外国人の生活や文化に合った産業が、地元で多く発展してほしいと願っています。

ILCで震災復興 地元の産業・経済の底上を

商工会議所は、市や関係する機関、組織と連携して、ILC誘致に向けたさまざまな事業を展開しています。ことしの夏ごろには日本の候補地が一歩化される予定であり、会議所としてはできる限りのことに精一杯取り組んでいきたいと考えています。

ILCは、奥州市だけでなく岩手県から宮城県にわたり大きな経済効果が見込めます。東日本大震災からいち早く復興するためにも、実現に向けてさらに盛り上げていきたい。市民は、国際研究機関が身近にできることで、新たな産業の発展が見込めるという共通理解が大事ではないかと思っています。



ILC誘致をPRする看板

それを前にして、国内では現在2カ所ある候補地（東北と九州）を、ことしの夏には研究者が1カ所に絞り込むという情報があり、ことしはまさに正念場の年となります。北上山地（北上高地）への建設実現に向けて、市は、県や関係機関との連携を一層強め、実現に向けた取り組みを強化します。

さらに、今後も講演会のほか勉強会や広報活動、情報発信を継続し、東日本大震災からの復興の象徴としてILCの建設が実現するよう、さらなる活動を展開していきます。

世界中の研究者が「ILC建設実現には地域の皆さんの熱意や支援、協力が必要」と強調しています。市のみならず東北全体でこの機運をさらに高めていくことが不可欠であり、地元の理解と熱意を発信することが

国際リニアコライダー（ILC）研修会

日時：1月19日(土) 午後1時30分～3時30分

場所：奥州宇宙遊学館

内容：英語でのILCについての講演会

奥州宇宙遊学館シアター室での研修

※国際交流都市を目指した英語での研修会

講師：ILCの国際共同設計チーム

アジア地域ディレクター 横谷 馨さん

問い合わせ：市国際交流協会（☎②6111）

必要となります。市民の皆さんもILC計画をご理解いただき、積極的なご支援をお願いします。



Interview

米里婦人会長
(江刺区米里字野里向)

及川 レイ子さん(62)

働く場所が増えて 地元に残ってほしい

ILCの誘致に向けてPR看板を設置するなど、市全体としても熱意が感じられるようになってきました。私たち地元住民としては夢のような話で、実現した場合の姿などは想像できないほどです。しかし、ILCにより市が大きく発展するのではないかと期待しており、何らかの面で協力していきたいと思っています。

ILCの誘致が実現することで、地元雇用がさらに増え、若い世代の人たちが地元に残ると思います。そして、若者の力で市全体が活気あふれるまちになってほしいと願っています。



Interview

水沢高校理数科2年
(水沢区字北丑沢)

軍司 啓宏さん(17)

素粒子物理学を勉強して 研究に関わる仕事に就きたい

中学3年生のとき科学体験研修事業に参加し、そのころから素粒子物理学に興味を持ち始め、今までに、茨城県つくば市の研究施設を2回訪問して見学しました。水沢高校はスーパーサイエンスハイスクールの指定校なので、特別授業なども受けられます。これからも素粒子物理学を勉強し、将来は研究に関わる仕事に就きたいと考えています。

市や県で行われている講演会などは、専門的な内容のものが多く感じます。ILCの誘致で市がどのように変わるかなど、一般向けの講演会が多く開催されると、市全体がさらに盛り上がると思います。